

吸入療法における地域連携マネジメント

法人名 国家公務員共済組合連合会
病院名 横須賀共済病院
職種・所属 薬剤科
発表者氏名 吉良駿太郎
協力者氏名 小林路子

【はじめに】

横須賀共済病院では 2015 年に「薬薬連携の会」を発足し、定期的に病院と保険薬局の交流の機会をもっている。その中で、施設間の情報共有が重要視される吸入療法については情報共有ツールの必要性を感じ、2016 年に吸入指導報告書（旧書式）を作成し運用を開始した。2020 年の診療報酬改定において吸入薬指導加算が新設されたことで、より一層、情報共有が必要と考え、今回報告書の書式や運用方法の見直しをしたので報告する。

【目的】

吸入指導に関する情報共有を、確実に効率よく簡便に行うことを目的として、旧書式から新書式（吸入デバイス毎にその特徴に合わせた評価項目を設定）への変更と、保険薬局へ吸入指導を依頼する方法を検討した。

【方法】

2020 年 6 月から新書式の運用を開始し、同年 9 月より吸入指導依頼を処方箋の備考欄に表記した。対象期間 2020 年 1 月 6 日から 2020 年 12 月 28 日に保険薬局が病院に送付した新旧の吸入指導報告書（当院以外の書式は除外）から、報告日、保険薬局名、内容の重要性（治療に影響する内容）の有無を集計した。

【結果】

調査期間中の吸入指導報告総件数は 16 か所の保険薬局から 107 件、重要性有は 28 件であった。その中で、旧書式は 4 か所の保険薬局から 36 件、重要性有は 10 件、新書式は 16 か所の保険薬局から 71 件、重要性有は 18 件であった。

【考察・結語】

吸入指導連携の再構築により保険薬局から、より多くの処方提案が可能になると考えていた。しかし、新規に報告する薬局や報告の数は増加したが、重要性を有した件数は増加しなかった。自身の経験から重要性有りの件数は実際より少なく評価されていると考察することができ、保険薬局における評価方法の統一化が課題であることが分かった。今後は、吸入指導のスキルアップをはかると同時に、患者のみならず評価する薬剤師側の問題点も抽出可能な書式の作成を試み、マネジメントをしていく必要がある。